

[044]中国文学論集表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/1650634>

出版情報：中国文学論集. 44, 2015-12-25. 九州大学中国文学会
バージョン：
権利関係：



岡村 繁 先生 遺 影

孫休好射雉至其時晨去夕及羣

臣莫不上諫此為小物歌介過人朕

所以好之深濟吳紀曰孫休一取屠太皇帝

上天願不見毛孫林瘞火至近建立之銳意

典藉欲單覽百家之事附好射雉至春晨出

暮及唯此時捨書崩溢景望十餘列吳事

日往在政美之大有違事頗以射雉為效

孫皓問策相陸凱曰猗一宗在朝

有人幾陸蒼曰二相五侯將軍十

餘人皓曰咸哉陸曰君賢臣忠國

之咸也父慈子孝家之咸也今政

荒民弊覆亡是懼臣何敢言咸

吳錄曰凱字敬風吳郡吳人並相遜太子

也忠鯁有大節篤志好學初為建忠校尉

雖有軍事手不釋書累遷左並相時後主

篡虐凱云直強諫以其宗族強威不敢加誅

何晏鄧颺令管輅住卦不知位至三

公不卦或輅稱引古義深以識之

臆曰此老生之常談輅明傳曰輅字公明

仰觀辰縣問及成人果明周易仰觀風角占

相之道聲發徐州子曰神童真州刺史萊微

子補大學一見清論論終曰垂見轉為鄧

舉練從事三見轉為治中四見轉為別駕

至十月舉為秀才臨辭辭曰何鄧二尚

書有廷國才幹於物理不精也何尚書神

明清微殆破秋豪君當慎之自言不辭易

中九必當相問比至谷宜善精其理也輅

口若九事皆王義者不之勝思也若陰陽

者精之久矣輅至洛果為何尚書所講矣

論易九之事皆明何曰君論陰陽此世無

雙也特鄧尚書在坐曰此君善易而語初不

及易中辭義何耶輅得賢答曰夫善易者不

論易何尚書含笑贊之曰可謂要言不煩

也曰謂輅曰問君非徒善論易而已至於

岡村先生臨模『唐写本世說新書』

岡村 繁先生 略年譜

大正十一年（一九二二） 七月二十三日、滋賀県甲賀郡油日村大字上野（現甲賀市甲賀町上野）に生まる。

昭和十二年（一九三七） 三月、油日尋常高等小学校高等科卒業。

昭和十七年（一九四二） 三月、滋賀県師範学校本科第一部卒業。

四月、広島高等師範学校文科第一部甲入学。

昭和十九年（一九四四） 九月、広島高等師範学校文科第一部甲第三学年修了。

十月、広島文理科大学文学科（漢文学専攻）入学。斯波六郎教授に師事。

昭和二十年（一九四五） 五月、特別幹部候補生として西部軍管区教育隊に入隊、伍長。

六月、熊本陸軍予備士官学校に入校。

八月、津山陸軍予備士官学校に移籍。同月末、復員。

昭和二十二年（一九四七） 九月、卒業論文『毛伝の原始形態に就きて』を提出して広島文理科大学文学科を卒業。

同三十日、広島文理科大学副手に就任。

十一月、船見たつ子と結婚。

昭和二十四年（一九四九） 六月、広島文理科大学助手に昇任。

昭和二十五年（一九五〇） 九月、『文心雕龍索引』刊行。

十月、以後約三年間、斯波六郎編『文選索引』全三冊の編纂に従事。

昭和二十八年（一九五三） 四月、学制改革により広島大学文学部助手に配置換。

九月、兵庫県立星陵高等学校教諭。以後約六年間、京都大学人文科学研究所の『元曲選』会読・文学部中国語学中国文学研究室の古典演習に参加し、吉川幸次郎・平岡武夫・小川環樹・入矢義高・田中謙二の諸教授より指導を受く。

昭和三十四年（一九五九）

三月、兵庫県立星陵高等学校を退職。

四月、名古屋大学文学部助手に採用さる。以後約五年間、入矢義高教授に師事。

九月、伊勢湾台風罹災。

十月、恩師斯波六郎博士逝去。

昭和三十六年（一九六一）

このころより同僚、東洋史学の谷川道雄・川勝義雄と共に京都大学・名古屋大学の有志を糾合して「中国中世史研究会」（代表、宇都宮清吉教授）を結成。毎月一回例会。

また、名古屋大学文学部において谷川道雄と共に『宋書』会読を主宰。

昭和三十七年（一九六二）

三月、論文『後漢三国の評論に関する研究』により、名古屋大学より文学博士の学位を授与せらる。また、このころより国史学の弥永貞三教授と共に『菅家文草』『菅家後草』訳注着手。

昭和三十九年（一九六四）

一月、東北大学教養部助教授に昇任。

昭和四十一年（一九六六）

十月、九州大学文学部助教授に配置換。

昭和四十三年（一九六八）

一月、学園紛争はじまる。

十一月、目加田誠博士の後任として九州大学文学部教授に昇任。

昭和四十七年（一九七二）

七月、九州大学文学部長（任期二年）。

昭和四十八年（一九七三）

四月、九州大学文学部附属九州文化史研究施設長を兼任（任期二年）。

昭和五十一年（一九七六）

五月、九州中国学会会長（在任二期四年）。

昭和五十二年（一九七七）

五月、大学入試センター教科専門委員会委員（任期一年）。

七月、九州大学附属図書館長（任期三年）。

九月、文部省在外研究員として、アメリカ合衆国・イギリス・フランスの図書館及び中国文学研究状況を視察、同月末帰国。

昭和五十七年（一九八二）

五月、再び九州中国学会会長（任期二年）。

十月、台北淡江大学の招聘により渡台、中国古典文学の連続講義を行う。

昭和五十八年（一九八三）

十一月、大学入試センター試験問題特別専門委員会委員（任期二年）

昭和五十九年（一九八四）

六月、西日本図書館学会会長（任期一年）。

十一月十日～十四日、九州大学と中山大学との学術交流協定調印のため、田中健蔵学長の随員として広州訪問。十二日、中山大学中国語言文学系において記念講演を行う。十一月十八日～二十九日、上海復旦大学の招聘により、日本代表団の一員として中日学者『文心雕龍』学術討論会に出席、研究発表を行う。

昭和六十年（一九八五）

四月、台北の国立台湾師範大学における中国古典文学第一回国際会議に出席、研究発表を行う。

昭和六十一年（一九八六）

二月一日、九州大学文学部最終講義「詩経とその詩人たち」を講ず。

三月、九州大学文学部教授を定年退官。

四月、久留米大学教授（法学部設置準備を担当）。

五月、九州大学名誉教授の称号を受く。

九月二十日～二十六日、九州大学文学部と中国暨南大学文学院との学術交流協定締結のため、中国広州の暨南大学を訪問。二十一日、暨南大学中文系において「詩経溯源」

と題して記念講演を行う。

九月二十八日、明治大学と中国聯合報文化基金会による第一回中国域外漢籍国際学术会议に出席、研究発表を行う。

十月、全国漢文教育学会理事。

昭和六十二年（一九八七）
四月、久留米大学法文学部教授へ配置換。

昭和六十三年（一九八八）
七月二十七日～八月二日、中国長春で開催された第一回昭明文選国際学术会议に出席し、「文選李善注の編集過程」と題して研究発表を行う。

平成元年（一九八九）
四月、久留米大学大学院比較文化研究科教授。

平成四年（一九九二）
四月、久留米大学文学部教授、文学部長（任期四年）。

七月二十九日～八月五日、中国長春で開催された第二回昭明文選国際学术会议に出席し、「文選集注と宋明版本の李善注」と題して研究発表を行う。

平成五年（一九九三）
四月、日本中国学会顧問。

平成七年（一九九五）
二月二十日～二十五日、台湾中央研究院中国文哲研究所の招請によって同研究所を訪問し、「孝道と情欲——後漢末期儒教の苦悩」「文選李善注の編集過程」等の集中講義を行う。

七月二十七日～三十一日、北京大学中文系主催の『文心雕龍』国際學術研討会に出席する。中国文心雕龍学会顧問。

八月一日～六日、鄭州大学古籍整理研究所主催の『文選』国際學術研討会に出席し、研究発表を行う。中国文選研究会顧問。

平成八年（一九九六）
三月、久留米大学文学部教授を定年退職。四月、久留米大学名誉教授。

四月、久留米大学文学部・大学院比較文化研究所客員教授（任期一年）。
十月末、軽度の脳梗塞を発症して久留米大学病院に入院、十一月十六日退院。
十一月三日、勲二等瑞宝章を受章。
平成九年（一九九七）
八月三十一日～九月三日、西安及び近郊を観光・視察する。
平成十一年（一九九九）
九月四日～八日、四川大学中国古典文献学国際学術研討会、暨楊明照教授九十華誕慶典に出席する。六日、『従宋代刊本『文選』李善注裏可以看出其剽窃和利用了『文選』五臣注』と題して研究発表を行う。四川大学文学与新聞学院荣誉教授。

平成十二年（二〇〇〇）
三月、中国文学理論学会顧問王元化氏主催の上海図書館における学術講演会に出席し、「日本接納中国文芸的類型」と題して講演を行う。
四月、中国鎮江市で開催された二〇〇〇年国際『文心雕龍』学術研討会に出席する。

平成十四年（二〇〇二）
七月、中国長春師範学院で開催された第四回『文選』学国際学術研討会に出席し、「二十世紀的日本『文選』研究与課題」と題して講演を行う。
五月、中国寧波大学で開催された二〇〇二年楚辞学国際学術研討会に出席し、「關於楚辞体文学的分離現象」と題して講演を行う。

平成十七年（二〇〇五）
七月、中国河南省新郷市の河南科技学院で開催された第五回国際文選学学術研討会に出席する。

平成十八年（二〇〇六）
十一月三日、第六十五回西日本新聞社「西日本文化賞」を受賞する。
平成二十二年（二〇一〇）
五月、華東師範大学王元化学術研究センターの『岡村繁全集（全十巻、別巻）』&『王元化著作集（全三巻）』刊行完結座談会に出席する。

平成二十六年（二〇一四）
十二月二十六日早晩、福岡県福岡市東区青葉の自宅にて永眠。
戒名は「學徳院教譽智光淨繁大居士」。同日付で内閣総理大臣より従四位を授与さる。

岡村 繁先生 著作目録

凡例

本目録は、岡村繁先生ご本人による自筆ノート『岡村繁著述目録』を底本とし、既存の目録（『文学研究』八四、『中国文学論集』一五、『中国詩人論』、『岡村繁全集』一〇、『東方学』一二四）を適宜参照して作成したものである。

底本は岡村先生ご自身により、詳細な項目を以て整理されており、本目録はこれを参考に項目を分けたが、ほぼ同様の項目と判断されるものについては、適宜一項目にまとめた。

最後の「その他」には、岡村繁先生について書かれた記事や文章のうち特記すべきものを加えた。

著書・編著・訳書

- 1 文心雕龍索引(漢文学叢書) 広島文理科大学漢文学研究室 一九五〇年 九月
- 2 広島大学文学部中国哲学
中国文学研究室書籍目録(油印本) *「索引」山口義雄[編] 一九五三年二月
- 3 後漢三国の評論に関する研究・附録論文二篇 自家油印(学位論文) 一九六二年 三月
- 4 陶淵明——世俗と超俗——(NHKブックス224) 日本放送出版協会 一九七四年二月
- 5 亀井南冥・昭陽全集 第一卷 共編 葦書房 一九七八年 五月
- 6 亀井南冥・昭陽全集 第三卷 葦書房 一九七八年 八月
- 7 亀井南冥・昭陽全集 第四卷 葦書房 一九七八年一〇月
- 8 亀井南冥・昭陽全集 第二卷 共編 葦書房 一九七八年二月
- 9 対馬藩現存漢籍分類目録 九州大学文学部 一九八〇年 三月
- 10 亀井南冥・昭陽全集 第八卷下 共編 葦書房 一九八〇年 九月
- 11 杉浦重剛全集 第五卷 共編 思文閣出版 一九八二年 一月
- 12 広瀬旭荘全集 第二卷 日記篇二 共編 思文閣出版 一九八二年 一月
- 13 広瀬旭荘全集 第三卷 日記篇三 共編 思文閣出版 一九八二年 一月
- 14 広瀬旭荘全集 第四卷 日記篇四 共編 思文閣出版 一九八二年 一月
- 15 広瀬旭荘全集 第五卷 日記篇五 共編 思文閣出版 一九八二年 一月
- 16 広瀬旭荘全集 第六卷 日記篇六 共編 思文閣出版 一九八二年 一月
- 17 広瀬旭荘全集 第七卷 日記篇七 共編 思文閣出版 一九八二年 一月
- 18 広瀬旭荘全集 第八卷 日記篇八 共編 思文閣出版 一九八二年 一月
- 19 広瀬旭荘全集 第十一卷 随筆篇 共編 思文閣出版 一九八二年 一月

中国文学論集 第四十四号

- 20 秋月郷土館蔵書分類総目録 共編 文献出版 一九八二年 三月
- 21 広瀬旭荘全集 第十卷 日記篇一 共編 思文閣出版 一九八二年 六月
- 22 文心雕龍索引(改訂版) 采華書林 一九八二年 九月
- 23 中国文学專題三講(淡江講座叢書五七) 劉三富「訳」 淡江大学出版中心 一九八四年一〇月
- 24 藤樹先生に学ぶ(藤樹講演会叢書第一四集) 滋賀県安曇川町教育委員会 一九八五年 三月
- 25 藤樹書院蔵書分類目録 滋賀県安曇川町 一九八五年 五月
- 26 文選研究論著目録 * 牧角悦子「主編」 一九八六年 三月
- 九州大学文学部中国文学研究室文選学史研究会
- 27 中国詩人論(岡村繁教授退官記念論集) 汲古書院 一九八六年一〇月
- 28 毛詩正義訳注 第一冊 中国書店 一九八六年一〇月
- 29 白氏文集三(新釈漢文大系九九) 明治書院 一九八八年 七月
- 30 宗家文庫史料目録(記録類IV和書漢籍) 宗家文庫漢籍目録 徹原町教育委員会 一九九〇年 三月
- 31 白氏文集四(新釈漢文大系一〇〇) 明治書院 一九九〇年一月
- 32 広瀬淡窓・広瀬旭荘(江戸詩人選集第九卷) 岩波書店 一九九一年二月
- 33 世俗与超俗——陶淵明新論(財団法人劉真先生學術基金会叢書) 陸曉光・笠征「訳」 一九九二年一月
- 台湾書店
- 34 白氏文集六(新釈漢文大系一〇二) 明治書院 一九九三年 八月
- 35 広瀬旭荘全集 第九卷 日記篇九 共編 思文閣出版 一九九四年 六月
- 36 生命のかがり火 ティムール・ダワマイデ「著」・岡村繁「訳」 九州・シルクロード協会「編」 アイネック 一九九四年一月
- 37 文選の研究 岩波書店 一九九九年 四月

- 38 岡村繁全集 第一卷 周漢文学史考 上海古籍出版社 二〇〇二年 八月
- 39 岡村繁全集 第二卷 文選之研究 上海古籍出版社 二〇〇二年 八月
- 40 岡村繁全集 第三卷 漢魏六朝の思想和文学 上海古籍出版社 二〇〇二年 八月
- 41 岡村繁全集 第四卷 陶淵明・李白新論 上海古籍出版社 二〇〇二年一〇月
- 42 岡村繁全集 第五卷 唐代文芸論 上海古籍出版社 二〇〇二年一〇月
- 43 岡村繁全集 第六卷 歴代名画記訳注 上海古籍出版社 二〇〇二年一〇月
- 44 白氏文集五(新釈漢文大系一〇一) 明治書院 二〇〇四年 二月
- 45 王元化著作集Ⅰ 文心雕龍講疏 汲古書院 二〇〇五年 四月
- 46 白氏文集九(新釈漢文大系一〇五) 明治書院 二〇〇五年 七月
- 47 白氏文集八(新釈漢文大系一〇四) 明治書院 二〇〇六年 八月
- 48 白氏文集二上(新釈漢文大系九八) 明治書院 二〇〇七年 七月
- 49 白氏文集二下(新釈漢文大系一一七) 明治書院 二〇〇七年 七月
- 50 王元化著作集Ⅱ 思辯隨筆 汲古書院 二〇〇八年 三月
- 51 白氏文集七上(新釈漢文大系一〇三) 明治書院 二〇〇八年 七月
- 52 岡村繁全集 第七卷 日本漢文学論考 上海古籍出版社 二〇〇九年 六月
- 53 岡村繁全集 第八卷 毛詩正義注疏選箋 上海古籍出版社 二〇〇九年 六月
- 54 岡村繁全集 第九卷 梅墩詩鈔拾遺 上海古籍出版社 二〇〇九年 六月
- 55 岡村繁全集 第十卷 随想篇 上海古籍出版社 二〇〇九年 六月
- 56 広瀬旭荘全集 第十卷 詩文篇 共編 思文閣出版 二〇一〇年 一月
- 57 王元化著作集Ⅲ 九十年代の反思録 汲古書院 二〇一〇年 三月
- 58 岡村繁全集別巻Ⅰ 文心雕龍索引 上海古籍出版社 二〇一〇年 四月

- 59 白氏文集十二上（新釈漢文大系一〇八） 明治書院 二〇一〇年 六月
 60 白氏文集七下（新釈漢文大系一一八） 明治書院 二〇一一年 六月
 61 白氏文集十（新釈漢文大系一〇六） 明治書院 二〇一四年二月
 62 白氏文集十一（新釈漢文大系一〇七） 明治書院 二〇一五年 九月

論文

- 1 沈約郊居賦雷張同箋補正 日本中国学会報第三集 一九五二年 三月
 2 人物志の流伝について——支那中古人物論の本質解明への一試論——
 哲学（広島大学）第三輯（白井先生頌寿記念論文特輯） 一九五二年二月
 3 世説所見話言用典考 広島大学文学部紀要第五号 一九五四年 三月
 4 郭泰・許劭の人物評論 東方学第一〇輯 一九五五年 四月
 5 郭泰の生涯とその為人 支那学研究（広島大学）第一三号 一九五五年 九月
 6 後漢末期の評論的気風について 名古屋大学文学部研究論集二二（文学八） 一九六〇年 二月
 7 曹丕の「典論論文」について 一九六〇年一〇月
 支那学研究（広島大学）第二四・二五合併号（斯波六郎博士追悼特集）
 8 人物志劉注校箋 名古屋大学文学部研究論集二五（文学九） 一九六一年 三月
 9 「才性四本論」の性格と成立——あわせて唐長孺氏の「魏晋才性論的政治意義」を駁す—— 一九六二年 三月
 10 清談の系譜と意義 日本中国学会報第一五集 一九六三年一〇月
 11 「六朝詩集」とそれに収められた「鮑氏集」について 一九六五年 三月
 東北大学教養部紀要第一号（人文科学・外国文学篇）

- 12 細川家永青文庫蔵「敦煌本文選注」について 集刊東洋学第一四号 一九六五年一〇月
- 13 「敦煌本文選注」校釈 東北大学教養部紀要第四号(国文学・漢文学特輯) 一九六六年二月
- 14 建安文壇への視角 中国中世文学研究(広島大学)第五号 一九六六年六月
- 15 楚辞文学における「抽思」の位置 集刊東洋学第一六号(中国文学特集号) 一九六六年一〇月
- 16 楚辞と屈原——ヒーローと作者との分離について—— 日本中国学会報第一八集 一九六六年一〇月
- 17 駢文 文学概論(中国文化叢書第四卷) 大修館書店 一九六七年九月
- 18 唐末における曲子詞文学の成立 一九六八年三月
- 19 文学研究(九州大学)第六五輯(目加田教授退官記念特輯) 一九六八年一二月
- Ch'ü Yuan is not the Author, if the Hero, of Ch'u-tz'ü Literature
STUDIES IN LITERATURE No.3 ("BULLETIN OF THE FACULTY OF LITERATURE KYUSHU UNIVERSITY" No.12)
- 20 陶淵明論——その超俗的生活を支えた世俗性—— 文学研究(九州大学)第六八輯 一九七一年三月
- 21 五言詩の文学的定着の過程 九州中国学会報第一七卷 一九七一年五月
- 22 陶淵明に関する魯迅の提言と革命後の中国での討論 一九七一年七月
- 野草第四号(特集——中国の古典文学と現代)
- 23 『歴代名画記』序篇校注 文学研究(九州大学)第六九輯 一九七二年三月
- 24 漢初における辞賦文学の動向 鳥居久靖先生華甲記念論集・中国の言語と文学 一九七二年二月
- 25 揚雄の文学・儒学とその立場 中国文学論集第四号(浜一衛先生退官記念号) 一九七四年五月
- 26 張彦遠『歴代名画記』の撰述過程 目加田誠博士古稀記念中国文学論集 龍溪書舎 一九七四年一〇月
- 27 『名画獵精録』の性格とその価値 文学研究(九州大学)第七二輯 一九七五年三月

中国文学論集 第四十四号

- 28 班固と張衡——その創作態度の異質性—— 小尾博士退休記念中国文学論集
第一学習社 一九七六年 三月

- 29 筑前秋月藩の漢学と教育——秋月郷土館藏漢籍管窺——
九州文化史研究所紀要（九州大学）第二二一号 一九七六年 三月

『史記』から『漢書』へ 国語一五五号 東京書籍

- 30 蔡邕をめぐる後漢末期の文学の趨勢 日本中国学会報第二八集
一九七六年 九月

- 31 亀井南冥『春秋左伝考義』の現存写本について
文学研究（九州大学）第七四輯（永田英一教授退官記念特輯）
一九七七年 三月

- 32 物語文学の成立と唐宋の説話文学
国語の研究（大分大学）第一〇号（工藤豊彦教授退官記念特輯号）
一九七七年 五月

- 33 張懷瓘の書論と張彦遠の画論 中国書論大系月報四 二玄社
一九七八年 九月

- 34 北九州の漢学（上） 国語一七八号 東京書籍
一九七八年一〇月

- 35 北九州の漢学（中） 国語一八一号 東京書籍
一九七九年 一月

- 36 北九州の漢学（下） 国語一八三号 東京書籍
一九七九年 三月

- 37 文選集注と宋明版行の李善注 加賀博士退官記念中国文史哲学論集 講談社
一九七九年 三月

- 38 「橘頌」の出現——楚辞騷体文学の分裂現象——
森三樹三郎博士頌寿記念東洋学論集 朋友書店
一九七九年 二月

- 39 唐代詩人群像 文学のなかの人間像（九州大学公開講座1） 九州大学出版会
一九八〇年 四月

- 40 李白「峨眉山月歌」考——李白の出蜀経路とその詩想開眼——
荒木教授退休記念中国哲学史研究論集 葦書房
一九八一年 二月

- 41

- 42

- 43

- 44

- 45

- 46

- 47

- 48

- 49

- 50

- 42 劉向『列女伝』における女性の行動と倫理
中国文学の女性像(石川忠久「編」) 汲古書院 一九八二年 三月
- 43 詩譜序正義訳注 文学研究(九州大学)第七九輯 一九八二年 三月
- 44 対馬宗家文庫漢籍(朝鮮本)提要 九州文化史研究所紀要(九州大学)第二七号 一九八二年 三月
- 45 東晋画論における老荘思想の反映の仕方
中国文学論集第一号(那須清教授退官記念号) 一九八二年一〇月
- 46 周南召南譜正義訳注 文学研究(九州大学)第八〇号 一九八三年 二月
- 47 劉劭の『人物志』における人物論の構想とその意図
中国における人間性の探究(金谷治「編」) 創文社 一九八三年 二月
- 48 李白と孟浩然 国語二二七号 東京書籍 一九八三年 三月
- 49 「父の子に於ける、実は情欲の為に発せしのみ」
小尾博士古稀記念中国学論集 汲古書院 一九八三年一〇月
- 50 李白の政治的自負とその本質 集刊東洋学第五〇号 一九八三年一〇月
- 51 周南関雎詁訓伝正義訳注(一) 文学研究(九州大学)第八一輯 一九八四年 二月
- 52 論曹丕的《典論・論文》 曠鍾「訳」
中国文芸思想史論叢第一輯 北京大学出版社 一九八四年 五月
- 53 竹添井井の『左氏会箋』が剽窃した一つの種本
三迫初男博士古稀記念論攷漢語・漢文の世界 溪水社 一九八四年 五月
- 54 『文心雕龍』における五経と文筆美 中国文学論集第一三三号 一九八四年一二月
- 55 「離騷」及「九章」的形成 范月嬌「訳」
日本漢学論文集(一) 文史哲出版社(台北) 一九八五年 一月

- 56 周南関雎詁訓伝正義訳注(二) 文学研究(九州大学) 第八二輯 一九八五年 三月
- 57 《文心雕龍》中的五経和文章美 李慶「訳」 中華文史論叢(中日学者《文心雕龍》
學術討論會論文選輯) 一九八五年第二輯(総第三四輯) 上海古籍出版社 一九八五年 六月
- 58 李白とその妻子たち 古田教授退官記念中国文学語学論集 東方書店 一九八五年 七月
- 59 「文選」与「玉台新詠」 余崇生「訳」 古典文学第七集(上) 台湾学生書局 一九八五年 八月
- 60 (補訂再録) 筑前秋月藩の漢学と教育——秋月郷土館藏漢籍管窺——(付表) 福岡藩・
秋月藩の教学に関する年表 九州と思想・文化(九州近世史研究叢書第一四卷)
国書刊行会 一九八五年 十一月
- 61 周南関雎詁訓伝正義訳注(三) 文学研究(九州大学) 第八三輯 一九八六年 二月
- 62 楚辞与屈原——関于主人公与作者的区别 孫東臨「訳」 一九八六年 五月
- 63 日本学者中国文学研究叢書第一輯 吉林教育出版社 一九八六年 一〇月
- 64 「文選」編纂の実態と編纂当初の『文選』評価 日本中国学会報第三八集
『詩経』とその詩人たち 中国詩人論 汲古書院 一九八六年 一〇月
- 65 「文選」と『玉台新詠』 神田喜一郎博士追悼中国学論集 二玄社 一九八六年 一二月
- 66 九州漢学の隆盛 九州と日本社会の形成——縄文から現代まで—— 吉川弘文館
* 一九八五年一〇月一五日西日本新聞文化欄の訂正再録 一九八七年 一月
- 67 中国文学と王朝物語——『斑竹姑娘』と『竹取物語』との関係—— 一九八七年 二月
- 68 中古文学と漢文学Ⅱ(和漢比較文学叢書第四卷) 汲古書院
『文選』李善注の編修過程——その緯書引用の仕方为例として—— 一九八七年 六月
- 69 「説文解字叙」段注箋釈(一) 久留米大学比較文化研究所紀要第二輯
東方学会創立四十周年記念東方学論集 東方学会 一九八七年 八月

- 70 『毛詩正義』校勘劄記 詩經研究第一二号 一九八七年二月
- 71 細川家永青文庫藏「敦煌本文選注」について 一九八七年二月
- 72 第一届中国域外漢籍國際學術會議論文集 聯合報文化基金會國學文獻館(台北)
- 73 「說文解字叙」段注箋積(二) 久留米大学比較文化研究所紀要第三輯 一九八八年三月
- 74 東晋画論与老莊思想 馬振方「訳」 中国文芸思想史論叢第三輯 北京大学出版社 一九八八年六月
- 75 《文選》李善注的編修過程——以引用緯書的情形為例—— 昭明文選研究論文集 吉林文史出版社 一九八八年一〇月
- 76 詩の誕生と宮廷文学の開花(先秦・漢魏六朝詩概説) 別冊墨第九号(漢詩と書) 芸術新聞社 一九八八年一二月
- 77 さまよえる『文選』——南北朝末期における文学の動向と「文選学」の成立—— 禅文化研究所紀要(花園大学)第一五号(入矢義高教授喜寿記念論集) 一九八九年一月
- 78 「說文解字叙」段注箋積(三) 久留米大学比較文化研究所紀要第五輯 一九八九年六月
- 79 江南の自然と文人・詩人(王羲之と陶淵明) (週刊朝日百科)世界の歴史二一八 朝日新聞社 一九九〇年三月
- 80 論老莊思想对東晋画論的影響 向以鮮「訳」 日本学者中国文学研究叢第三輯 吉林教育出版社 一九九〇年六月
- 81 《楚辞》与屈原——關於主人公与作者的区别 孫東臨「訳」 与日本学者討論屈原問題 華中理工大学出版社 一九九〇年六月
- 82 班固和張衡——論他們創作態度的異質性 慶賀楊明照教授八十寿辰文心同雕集 成都出版社 一九九〇年六月
- 83 白樂天の詩賦と唐代の科擧 新しい漢文教育第一一号 一九九〇年一月

中国文学論集 第四十四号

- 83 白楽天の詩賦と王朝の詩賦 和漢比較文学第八号 一九九一年一〇月
- 84 《文心雕龍》中の五経和文章美 竹村則行・周龍梅〔訳〕 一九九二年 六月
- 85 《文心雕龍》国際学術研討会論文集 文史哲出版社
 《文心雕龍》在唐初鈔本《文選某氏注》殘篇中の投影 林少華〔訳〕 一九九二年 六月
- 86 文心雕龍研究薈萃 上海書店
 文選集注与宋明版本的李善注 郭斐映〔訳〕 一九九二年 六月
- 87 文選学論集（選学国際学術研討会論文集） 時代文芸出版社
 試以蔡邕为中心論後漢末期文学的趨勢 郭斐映〔訳〕 一九九三年 六月
- 88 慶祝饒宗頤教授七十五歲論文集 香港中文大学中国文化研究所
 永青文庫藏敦煌本『文選注』箋訂（一） 一九九三年 六月
- 89 久留米大学文学部紀要（国際文化学科編）第三号 勉誠社
 白居易の賦 白居易の文学と人生Ⅱ（白居易研究講座第二卷） 一九九三年 七月
- 90 「専家漫筆」 「二人」と「三人」 中国語第四〇八号 内山書店
 一九九三年二月
- 91 「専家漫筆」 「四亭八当」という成語 中国語第四〇九号 内山書店
 一九九四年一月
- 92 「専家漫筆」 外なる「体」と内なる「体」 中国語第四一〇号 内山書店
 一九九四年二月
- 93 僧大潮と近世九州の漢詩壇 九州学を樂しむ（久留米大学公開講座四） おうふう
 一九九四年三月
- 94 李白の生きかた 一九九四年 九月
- 95 QOLⅡ生存の質を高める生き方（久留米大学公開講座五） 石風社
 從蔡邕看東漢末期的文学趨勢 王琳・牛月明〔訳〕 一九九四年 九月
- 96 陰山学刊（社会科学版）一九九四年第三期
 広瀬旭莊『梅墩詩鈔』三序訳注 久留米大学比較文化研究所紀要第一八輯 一九九六年 九月

- 97 孝道与情欲——後漢末期儒教的苦惱
 中国文哲研究通訊第六卷第四期 中央研究院中国文哲研究所
 一九九六年十二月
- 98 梅墩詩鈔初編識注(一) 久留米大學比較文化研究所紀要第一九輯
 『白氏文集』の旧鈔本と旧刊本 東方学会創立五十周年記念東方学論集 東方学会
 一九九七年三月
- 99 『白氏文集』の旧鈔本と旧刊本 東方学会創立五十周年記念東方学論集 東方学会
 一九九七年五月
- 100 永青文庫藏敦煌本『文選注』箋訂(下)
 久留米大學文学部紀要(國際文化学科編)第一一號
 一九九七年六月
- 101 梅墩詩鈔初編識注(二) 久留米大學比較文化研究所紀要第二〇輯
 南北朝末期的文学動向与文選学的興起 陸曉光〔訳〕
 一九九七年九月
- 102 學術集林卷一一 上海遠東出版社
 一九九七年一月
- 103 広瀬旭莊の遺稿とその推敲過程(先儒祭祀記念講演)
 斯文第一〇六號(昌平覺創建二〇〇年、斯文会創立八〇年記念号)
 一九九八年三月
- 104 司馬相如伝考 学林第二八・二九号(高木正一先生追悼記念論集)
 一九九八年三月
- 105 《文選集注》与宋明版本的李善注 郭斐映〔訳〕 段書偉〔校訂〕
 中外学者文選学論集 中華書局
 一九九八年八月
- 106 《文選》編纂的實際情況与成書初期所受到的評價 劉玉飛〔訳〕 俞紹初〔校訂〕
 中外学者文選学論集 中華書局
 一九九八年八月
- 107 (再録)《文選》李善注的編修過程——以引用緯書的情形為例
 中外学者文選学論集 中華書局
 一九九八年八月
- 108 南北朝末期文学的動向及“文選学”的形成 劉玉飛〔訳〕 俞紹初〔校訂〕
 中外学者文選学論集 中華書局
 一九九八年八月

中国文学論集 第四十四号

- 109 永青文庫藏敦煌本《李善注》箋訂(上) 羅国威〔訳〕
 学術集林卷一四 上海遠東出版社 一九九八年一〇月
- 110 六朝貴族文人の臆病と虚栄 日本中国学会創立五十年記念論文集 汲古書院
 永青文庫藏敦煌本《文選注》箋訂(続篇) 羅国威〔訳〕 一九九八年一〇月
- 111 学術集林卷一五 上海遠東出版社 一九九九年一月
- 112 五言詩の定型過程 陸曉光〔訳〕 中国学研究第三輯 中国書籍出版社 一九九九年九月
- 113 宋代刊本《李善注文選》剽窃和利用了《五臣注》 新国学第一卷 巴蜀書社 一九九九年二月
- 114 宋代刊本《李善注文選》に見られる『五臣注』からの剽窃利用 村山吉廣教授古稀記念中国古典学論集 汲古書院 二〇〇〇年三月
- 115 六朝貴族文人の儒怯和虚栄 俞慰慈〔訳〕 慶祝王元化教授八十歳論文集 華東師範大学出版社 二〇〇一年一月
- 116 宋代刊本《李善注文選》盗用了《五臣注》 俞慰慈・陳秋萍〔訳〕
 《昭明文選》与中国伝統文化(第四屆文選学国際学術研討会論文集) 吉林文史出版社 二〇〇一年六月
- 117 「莊老告退、山水方滋」考——淝水の戦の文化史的意義—— 中国文学論集第三二号 二〇〇三年十二月
- 118 唐代文化と日本 福岡教育大学国語科研究論集第四五号 二〇〇四年一月
- 119 重修北宋国子監本『李善注文選』序説 立命館文学第五九八号(清水凱夫教授退職記念論集) 二〇〇七年二月

随筆・随想・概説

- 1 中国の詩① 天翔(神戸) 五〇号 一九五五年七月
- 2 中国の詩② 天翔(神戸) 五一号 一九五五年八月

- 3 中国の詩③ 天翔(神戸) 五一号 一九五五年 九月
- 4 中国の詩④ 天翔(神戸) 五二号 一九五五年 一〇月
- 5 中国の詩⑤ 天翔(神戸) 五三号 一九五五年 十一月
- 6 中国の詩⑥ 天翔(神戸) 五四号 一九五五年 十二月
- 7 愚公、山を移す 天翔(神戸) 五五号 一九五六年 一月
- 8 中国の詩⑦ 天翔(神戸) 五六号 一九五六年 二月
- 9 中国の詩⑧ 天翔(神戸) 五七号 一九五六年 三月
- 10 中国の詩⑨ 天翔(神戸) 五九号 一九五六年 五月
- 11 中国の詩⑩ 天翔(神戸) 六一号 一九五六年 七月
- 12 中古の中国人の生活と古典——特に其の会話と古典とについて—— 星陵文学第一三号
- 13 研修雑感 兵庫教育第九卷第一〇号 一九五七年 二月
- 14 漢文入門期の取り扱いについて 漢文教室第三六号 大修館書店 一九五八年 五月
- 15 美人考 星陵文学第一四号 一九五八年 九月
- 16 伝統 という言葉 星陵新聞七五号(星陵高等学校八十周年記念号) 一九五八年 一〇月
- 17 伊勢湾台風の中で 星陵新聞八二号 一九五九年 一月
- 18 目加田誠著『洛神の賦——中国文学論文と随筆』 会報(九州大学文学部同窓会) 第一〇号 一九六七年 三月
- 19 目加田誠著『屈原』 会報(九州大学文学部同窓会) 第二一号 一九六八年 三月
- 20 奇妙な語順の文章 朝日新聞(夕刊)文化欄(研究ノート) 一九六九年 一月 八日
- 21 陶淵明——その「真」と通俗性 朝日新聞(夕刊)文化欄 一九七〇年 一月 二六日
- 22 中国——近くて遠き(上) 西日本新聞(夕刊)文化欄 一九七一年 二月 一五日

- 23 中国——近くて遠き〈下〉 西日本新聞(夕刊) 文化欄 一九七一年 二月一六日
- 24 陶淵明の人と作品 国語一一四号 東京書籍 一九七二年 二月
- 25 所感 会報(九州大学文学部同窓会) 第一六号 一九七三年 三月
- 26 学部長提言「文学部」 蛭雪時代五月号 旺文社 一九七三年 五月
- 27 読み手の立場 駿台新聞第一二号「作文力をつけるには(国立大学教授にアンケート)
ト)(その2) 駿台文庫 一九七三年 七月
- 28 『甲賀町史』を読んで 広報こうか二二二号 滋賀県甲賀郡甲賀町役場 一九七三年 九月
- 29 たくましい学問の場を 会報(九州大学文学部同窓会) 第一七号 一九七四年 三月
- 30 佐藤震二先生を祭る文 会報(九州大学文学部同窓会) 第一七号 一九七四年 三月
- 31 『世説新語』との出会い 新釈漢文大系季報三七 明治書院 一九七五年 一月
- 32 東洋の友誼 日中協ニュース第四七号 日中友好国民協議会 一九七五年 一月
- 33 『文選』訳注の完成 全釈漢文大系月報二四(第三二卷『文選』七) 集英社 一九七六年 一月
- 34 亀井昭陽『毛詩考』解説 亀井南冥・昭陽全集第二巻 葦書房 一九七六年 二月
- 35 附属図書館長就任のあいさつ 一九七七年 九月
- 36 図書館情報第一三巻第三号 九州大学附属図書館報(通巻一〇八号) 一九七七年 一〇月
- 37 特別寄稿Ⅱある山村の小学校の思い出 近江教育第五九三号 滋賀県教育会 一九七七年 一月
- 38 欧米紀行一 九大学報一一三八 一九七八年 二月
- 39 欧米紀行二 九大学報一一三九 一九七八年 二月
- 40 欧米紀行三 九大学報一二四〇 一九七八年 三月
- 41 亀井南冥・昭陽の学問——著述全集刊行を機に 西日本新聞(夕刊) 文化欄 一九七八年 五月一六日

- 41 亀井南冥『春秋左伝考義』解説 亀井南冥・昭陽全集第一巻 葦書房 一九七八年 五月
- 42 亀井南冥『泱泱余響』解説 亀井南冥・昭陽全集第一巻 葦書房 一九七八年 五月
- 43 『文心雕龍』による学問の交わり 新釈漢文大系季報五五 明治書院 一九七八年 六月
- 44 亀井昭陽『左伝續考』解説 亀井南冥・昭陽全集第三巻 葦書房 一九七八年 八月
- 45 亀井昭陽の学問的慧眼 亀井南冥・昭陽全集によせて三 葦書房 一九七八年一〇月
- 46 中国文学二つの大著——相つゞ発刊に寄せて—— 西日本新聞(夕刊)文化欄 一九七九年 六月二二日
- 47 物語文学のルーツ 朝日新聞(夕刊)文化欄 一九八〇年 二月 四日
- 48 「商女は知らず亡国の恨み」——唐王朝の衰亡と詩風の変移 西日本新聞(夕刊)文化欄 一九八〇年 二月二九日
- 49 『亀井昭陽詩文集』解説 亀井南冥・昭陽全集第八巻下 葦書房 一九八〇年 九月
- 50 先学を語る——斯波六郎博士——(司会) 東方学第六一輯 一九八一年 一月
- 51 「近況」李白研究に明るい見通し 西日本新聞(夕刊)文化欄 一九八二年 一月 八日
- 52 杉浦重剛の漢詩文について 杉浦重剛全集第五巻 思文閣出版 一九八二年 一月
- 53 秋月郷土館蔵漢籍解題 秋月郷土館蔵漢籍書分類総目録 文献出版 一九八二年 三月
- 54 佐藤清太先生の思い出 洗耳子——佐藤清太博士追悼文集 同刊行会 一九八二年 四月
- 55 堂々の巨冊『広瀬旭荘全集』 大分合同新聞(夕刊) 一九八二年 七月二〇日
- 56 戦争に明け暮れた学生時代 追懐(広島高等師範学校創立八十周年記念) 一九八二年一〇月
- 57 杉浦重剛先生の漢詩——郷里を詠じた詩を中心に——(大津市)梅窓報第二〇号 一九八三年 四月
- 58 「定本詩経訳注(下)・楚辞訳注」 『目加田誠著作集』第三巻 龍溪書舎 一九八三年 九月
- 59 対馬に朝鮮本は残った 九大学報二二〇九(一九八三年二月号) 九州大学事務局 一九八三年二月
- 60 斯波先生に教わった日々 斯波先生を偲んで 広島大学文学部中国文学研究室 一九八四年 九月

- 61 藤樹先生に学ぶ 藤樹講習会叢書一四集 一九八五年 三月
 藤樹書院蔵書解説 藤樹書院蔵書分類目録 滋賀県安曇川町 一九八五年 五月
 62 無言の教育 会報(滋賀大学教育学部同窓会) 第三六号 一九八五年一〇月
 63 九州漢学の隆盛 西日本新聞(夕刊)文化欄「九州と日本社会の形成」(六六) 一九八五年一〇月一五日
 64 退官にあたって 会報(九州大学文学部同窓会) 第二九号 一九八六年 三月
 65 精読と拾い読み 御井(久留米大学御井図書館ニュース) 第八号 一九八八年 七月
 66 『白氏文集』の全訳を第三冊より発刊するの弁 新釈漢文大系季報七五 明治書院 一九八八年 七月
 67 私が教えた高校生たち 星友平成元年号 兵庫県立星陵高等学校同窓会 一九八九年 二月
 68 清と俗——壮年時代の白楽天—— 新釈漢文大系季報七九 明治書院 一九九〇年一月
 69 文学部設置認可さる 久留米大学広報第七八号 一九九二年 一月 四日
 70 挑灯 久留米大学広報第七八号 一九九二年 一月 四日
 71 日田の広瀬宗家の先賢文庫 御井図書館ニュース(久留米大学) 第一九号 一九九二年 六月
 72 文学部の開設とその理念 大学時報(日本私立大学連盟) 第四一卷二二五号(七月号) 一九九二年 七月
 73 はるけくも来たるものかな 十七会五〇周年記念誌(昭和一七年三月一九日滋賀県師範学校本科卒業同級会誌) 一九九二年一〇月
 74 施設長のころの想い出 九州文化史研究所紀要(九州大学) 第三九号 一九九四年 三月
 75 一海知義さんを哀悼する辞 停年退休記念文集生前弔辞——一海知義を祭る 一海知義停年退休記念文集刊行会 一九九四年 七月
 76 目加田誠先生と詩経 詩経研究第一九号 一九九四年一二月
 77 目加田誠先生の思い出 中国文学論集第二三三号 一九九四年一二月

- 79 目加田誠先生を悼む 東方学第八九輯 一九九五年 一月
- 80 シルクロードの文学——新疆ウイグル自治区の散文と詩歌——
シルクロード第六号 九州・シルクロード協会 一九九六年 一〇月
- 81 年度ごとに大切に保存（広報こうか五〇〇号に寄せて） 広報こうか第五〇〇号
老いは楽しく——中国古代の死生観—— 一九九六年 一〇月
- 82 生きることの美しさ（久留米大学公開講座一一） 石風社 一九九七年 三月
- 83 中国古代の死生観 医療科学入門——その科学・アート・文化 南江堂 一九九七年 四月
- 84 洛陽回憶 日中文化交流第六〇二号 日本中国文化交流協会 一九九七年 二月
- 85 竹治貞夫さんの学徳を偲んで 徳島大学国語国文学第一一号 一九九八年 三月
- 86 厳選された中原文明の至宝——大黄河文明展を観て—— 日中文化交流第六二四号
「春寒」 『漢詩歳時記 春の一』 同朋社 二〇〇〇年 一月
- 87 *一九八八年同朋社刊『中国文学歳時記』春（上）の再録 二〇〇〇年 三月
- 88 之を仰げば弥々高く、之を鑽れば弥々堅し 入矢義高先生追悼文集 汲古書院 二〇〇〇年 三月
- 89 「九州図書館史」の完成と出版 西日本新聞（朝刊）文化欄 二〇〇〇年 二月 一九日
- 90 漢詩にっぽん東西南北（佐賀県） *最優秀作は石碑に刻す「ふるさと漢詩コンテス
ト」 全漢詩連会報第八号 全日本漢詩連盟 二〇〇〇年 五月 四月
- 91 『白氏文集』に見える「何則」の用法 新釈漢文大系季報一〇八 明治書院 二〇〇〇年 七月
- 92 『白氏文集』自注に見える後日の追記 新釈漢文大系季報一一〇 明治書院 二〇〇一年 六月
- 93 草創期の中国文藝座談会・『中国文学論集』 中国文学論集第四〇号 二〇〇一年 二月

書評・資料紹介・推薦

- 1 中島千秋著『賦の成立と展開』 集刊東洋学第一二号 一九六四年一〇月
- 2 宇都宮清吉訳『顔氏家訓』 中国文学論集創刊号 一九七〇年 五月
- 3 増田清秀著『楽府の歴史的研究』 創文一四三号 創文社 一九七五年 九月
- 4 増田清秀著『楽府の歴史的研究』(詳評) 中国文学論集第五号 一九七六年 三月
- 5 鈴木修次著『漢字——その特質と漢字文明の将来』『漢語と日本人』『中国文学と日本文学』 週刊読書人 読書人 一九七八年一二月
- 6 近藤春雄著『唐代小説の研究』 中国文学論集第八号 一九七九年 九月
- 7 大型コレクション『百部叢書集成』について 九州大学附属図書館報 一九八三年 四月
- 8 新時代をよぶ画期的労績 近藤春雄「著」『日本漢文学大事典』(明治書院刊) 広告 一九八四年 九月
- 9 山内春夫著『杜牧の研究』 志学(大谷女子大学学报)第一六号 一九八五年一〇月
- 10 水沢利忠著『史記』列伝一(新釈漢文大系八八) 新しい漢文教育第一二号 一九九一年 五月
- 11 村山吉廣・江口尚純共編『詩経研究文献目録』 詩経研究第一七号 一九九二年一二月
- 12 久留米大学本高麗版『白氏文集』 御井(久留米大学御井図書館ニュース)第二三号 一九九三年 九月
- 13 李白研究の画期的名著——松浦友久著『李白伝記論——客寓の詩想——』 東方第一七五号 一九九五年一〇月
- 14 武内義雄著『論語之研究』 新しい漢字漢文教育第四三号 二〇〇六年一月
- 15 石川忠久著『漢詩人 大正天皇——その風雅の心』 漢文教室第一九六号 大修館書店 二〇一〇年 五月

序文

- 1 『嵇康集』詩「索引」 松浦崇〔編〕 彙文堂書店 一九七五年 六月
 - 2 『阮籍集索引』 九州大学文学部中国文学研究室詠懷詩会〔編〕(藤井良雄〔主編〕) 中国書店 一九八五年 一月
 - 3 『菊池租図書館学論集』 菊池租図書館学論集刊行会 一九八六年 八月
 - 4 『九州大学附属図書館漢籍目録』 九州大学附属図書館 一九九五年 三月
 - 5 『東洋の知識人——士大夫・文人・漢学者——』 渭陽会〔編〕 朋友書店 一九九五年 三月
 - 6 『晚唐詩人考』 桐島薰子〔著〕 中国書店 一九九八年 二月
 - 7 『白居易「諷諭詩」の研究』 静永健〔著〕 勉誠出版 二〇〇〇年 二月
 - 8 『九州図書館史』 西日本図書館学会〔編〕 千年書房 二〇〇〇年 一月
 - 9 『わかりやすくおもしろい中国文学講義』 九州大学中国文学会〔編〕 中国書店 二〇〇二年 五月
 - 10 『五山文学の研究』 愈慰慈〔著〕 汲古書院 二〇〇四年 二月
 - 11 『日本福岡大学《文心雕龍》国際学術研討会論文集』 福岡大学文心雕龍国際学術研討会編委会〔主編〕 文史哲出版社(台湾) 二〇〇七年 三月
 - 12 『白居易の文学と白氏文集の成立——廬山から東アジアへ——』 陳獅〔著〕 勉誠出版 二〇一一年 四月
- 1 訳
- 1 文学芸術論集(中国古典文学大系第五四卷) 平凡社 *『文選』の序(岡村繁
〔訳〕 『詩品』の序(岡村繁〔訳〕 歴代名画記(岡村繁・谷口鉄雄〔共訳〕)
 - 2 『中国文学歳時記 春(上)』 同朋舎 *『春寒』 『題池州貴池亭』(唐杜牧) 『絶
句』(元趙孟頫) 『江南曲』(清宋琬) 『春寒』(清厲鶚)

岡村 繁先生 著作目録

- 3 『中国文学歳時記 秋(下)』 同朋舎 *重陽 「九月九日憶山東兄弟」(唐王維)
「九日藍田崔氏莊」(唐杜甫) 「九日」(唐杜甫) 「行軍九日思長安故園」(唐岑
參) 「九日送別」(唐王之渙) 「九日無酒、步至西汀閒眺」(明高啓) 「采桑子」
(近代毛沢東) 両重陽 「九月十日即事」(唐李白) 菊酒 「飲酒」(晋陶淵明)

講演記録・要旨

- 1 孝の系譜 家庭教育叢書——全国藤樹講習会講話第二集——
滋賀県高島郡安曇川町青柳小学校 一九七六年一二月
- 2 秋月藩の漢籍と秋月の乱 図書館学(西日本図書館学会) 第四五号 一九八四年 九月
- 3 宗家文庫と大陸文化について 対馬風土記第二二号 対馬郷土研究会 一九八六年 三月
- 4 古きものに新しい生命を 図書館学(西日本図書館学会) 第五四号 一九八九年 三月
- 5 流行から文化へ——日本の中国文芸受容のパターン——(文学部開設一〇周年記念講演)
久留米大学文学部紀要(国際文化学科編) 第一九号(久留米大学文学部一〇周年
記念号) 二〇〇二年 三月

紹介・報告

- 1 Recent Publications on Chinese Literature : III. Japan “Chinese Literature : Essay, Articles,
Reviews” Vol. 2, No. 1. The University of Wisconsin 一九八〇年 一月
- 2 日本研究中国古代文論的概況 曠鍾[訳] 文献(北京図書館) 一九八〇年第四輯 一九八一年 二月
*(再録) 日本研究『文心雕龍』論文集 齊魯書社(濟南)
- 3 活気に溢れた佐賀大会——九州中国学会—— 東方学会報第四〇号 東方学会 一九八一年 七月

4 九州・沖縄地区学界消息 新しき漢文教育創刊号 一九八五年一〇月

辞典執筆

- 1 「文心雕龍」 中国語学新辞典 光生館 一九六九年一〇月
- 2 「陶淵明」 ブリタニカ国際大百科事典 TBSブリタニカ 一九七五年二月
- 3 「王衍」「郭泰」「蔡邕」「人物志」「楚辞」「張彦遠」「徐幹」「桃花源記」「陶潜」 中国思想辞典 日原利国「編」 研文出版 一九八四年 四月
- 4 「屈原」「宋玉」「賦」 日本大百科全書 小学館 一九八六年 一月
- 5 「羅山先生詩集」 国史大辞典 吉川弘文館 一九九三年 一月

放送

- 1 中国古代の文人たち一 (屈原と楚辞文学) NHK第二(市民大学講座) 一九七三年一月 四日
- 2 中国古代の文人たち二 (漢代の宮廷詩人) NHK第二(市民大学講座) 一九七三年一月 一日
- 3 中国古代の文人たち三 (五言詩とその詩人たち) NHK第二(市民大学講座) 一九七三年一月 二八日
- 4 中国古代の文人たち四 (陶淵明) NHK第二(市民大学講座) 一九七三年一月 二五日
- 5 朝のロータリー・時の話題 NHK第一 一九七八年 五月 二日

その他 (岡村繁先生に関するもの)

- 1 陳暉「日本学者岡村繁来滬作学术交流」 文滙読書週報第七九〇号 二〇〇〇年 四月 一五日
- 2 何情・周伯軍「有朋自東瀛来, 不亦楽乎——岡村繁先生来滬学术交流紀実」 文滙読書週報第七九〇号 二〇〇〇年 四月 一五日

- | | | | | |
|----|-----------------------------|-------------|------------|----------|
| 3 | 甲斐勝二「岡村繁先生中国学的特徴」 | 文滙讀書週報第七九〇号 | 二〇〇〇年 | 四月一五日 |
| 4 | 学問の思い出——岡村繁先生を囲んで—— | 竹村則行「司会」 | 東方学第一二四輯 | 二〇一二年 七月 |
| 5 | 竹村則行「岡村繁先生を偲んで」 | | 東方学第一三〇輯 | 二〇一五年 七月 |
| 6 | 竹村則行「豪放にして細密——岡村繁先生を追憶する——」 | | 中国文学論集第四四号 | 二〇一五年一二月 |
| 7 | 東英寿「岡村繁先生弔辞」 | | 中国文学論集第四四号 | 二〇一五年一二月 |
| 8 | 桐島薫子「追悼文岡村繁先生を偲んで」 | | 中国文学論集第四四号 | 二〇一五年一二月 |
| 9 | 海村惟一「岡村繁恩師門下の二十五年間」 | | 中国文学論集第四四号 | 二〇一五年一二月 |
| 10 | 孫明君「岡村繁先生の思い出」 | 栗山雅央「訳」 | 中国文学論集第四四号 | 二〇一五年一二月 |
| 11 | 岡村穰「長男として、父親の思い出」 | | 中国文学論集第四四号 | 二〇一五年一二月 |